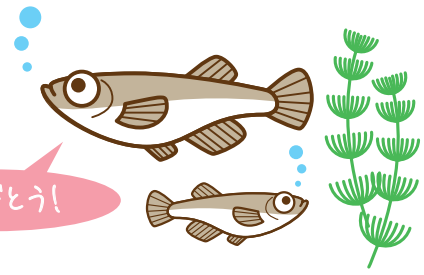
生きもの ビオトープをつくって生きものをよぼう！



ビオトープって？

ビオトープとは、森林や草地、河川等の「地域の野生の生きものが暮らす場所」のことです。
さまざまな場所にビオトープをつくることで、狛江市の生物多様性(※1)を守ることにつながります。

※1 さまざまな生きものが異なる環境で自分たちの生きる場所を見つけ、互いに違いを活かしながらつながり調和していること。

おうちでカンタン！ビオトープづくりのススメ

実はカンタンなんです！

「うちで生きものを観察してみたいけど、何をしたらいいのかわからない…」「ビオトープはお手入れが難しそう…」と思っていませんか？

実は、お庭に石や枝を積みあげるだけでも、ビオトープをつくることができるんです！

ビオトープの種類はさまざまで、呼びたい生きものの種類や手に入る材料などに合わせてつくることができます。

ぜひみなさんも自分に合ったビオトープをつくって生きものを呼んでみてください！

石や枝を積みあげるだけでもできるんです！

エコスタック(※2)

※2 石や枝などの自然物を積み上げ、生きものが暮らせるようにしたもの

◎観察できそうな生きもの

ニホンカナヘビ/ダンゴムシ/ハサミムシ　など

◎準備するもの

石、枝、刈った草など（なるべく大きさや形がバラバラなもの）

◎作り方は簡単！

①使いたい素材を決めて集める！
②集めた素材を積んだら完成！

ポイント 1つのエコスタックに使用する素材は、1種類にしましょう。また、すき間があると生きものが暮らしやすくなります。

家庭で取り組めるビオトープのつくり方等を紹介した冊子を市役所5階環境政策課で配布しています。

市HPにも掲載中

みんなでつくる！学校のビオトープ

狛江第六小学校

春になると、ふ化したオタマジャクシが田んぼで元気に泳ぎ回り、児童が夢中で観察する人気スポットになります。工夫をしながらも手は加えすぎず、自然なかたちで維持していきたいと思っています。

▲水草の下には、およそ100匹のメダカがかくれています。

観察池として授業でも活用されていて、たくさんのメダカが観察できます。また、左右に田んぼ、川魚が住む水槽が設置されています。田んぼでは、ゆたかな土づくりのため、稲の植えつけ前にレンゲソウの種まきを行いました。

緑野小学校

お世話をしていると、低学年の児童がのぞきに来ます。その子たちが高学年になると、メダカの観察を通して生きものについて学びます。みんなが生きものを身近に感じられる環境だと思います。

▲池をのぞいてみると、たくさんのメダカたちが観察できます。

「みどりのメダカ池」と呼ばれていて、はじめはメダカだけが住む池でしたが、みんなで協力して土や小石を入れたり、いろいろな水草を繁殖させたりして、今では多くの生きものが住むビオトープになりました。